

2013年4月 清明節休暇に山東省の泰山に登る

北清康二

1月、2月に46日あった冬休みは、あまりの寒さに閉口して太原市内にじっと籠っていました。

4月に入り大分暖かくなりました。そこで、清明節の3連休を利用して、内陸部の山西省とは異なる日本海に近い山東省に、同年輩の日本人留学生Sさんを誘って旅行することにしました。

旅行の目標を、

- 1、中国5岳の筆頭、「泰山（世界遺産）」を登る。
- 2、儒教の始祖「孔子」の故郷曲阜を尋ねる。
- 3、山東省の省都「済南市」を尋ねる。

と盛りだくさんに設定したのでかなりタイトな日程になりました。



泰山は山東省泰安市にある標高 1514 メートルほどの山です。秦の始皇帝、漢の武帝、唐の太宗、宋の太祖から明清時代まで、約 2000 年に渡り、宗教の中心、神聖な山として歴代の皇帝により崇められ、歴代の皇帝が国家統一を天に報告する「封禪の儀」を行なう場所だったとのことです。

泰山の登山道路は 6293 段の石段で作られていて全長 9 キロに及びます。バスとロープウェイを使えば、簡単に上ることができそうですが、今回は海拔 0m の市内から歩いて登ることにしました。

持参した GPS で記録した歩いて登ったルートです。



歴代の皇帝は、「岱廟」に参拝してから登山したそうですが、早朝ということもあり門が開いていませんでした。そこで、外を見ただけで朝食を簡単に済ませ、登山を開始しました。生憎の天気、小雨模様でした。

「岱廟」 - 「紅門」 10分

「紅門」 - 「中天門」 3時間

「中天門」 - 「南天門」 1時間

「南天門」 - 「玉皇頂（山頂）」 2時間25分

上りに、6時間35分を費やしました。年を取り歩が鈍くなった以外に、この3連休に泰山に登る登山客が多く、前日に登って下山する登山客と渋滞に遭遇した、最後の頂上への上りでは降りしきる雨と強風による気温低下で両腿が痙攣を起こしカタツムリ状態だったということが影響しています。同行のSさんは体調が良くないこともあり、「中天門」からはロープウェイを利用したので、後半はひとりで登りました。

「中天門」から「南天門」まで、石段が写真のように人で埋まるのです。驚きます！上部は特に急勾配で、一人が転んだらドミノ倒しで下の者は圧死するでしょう。大変な恐怖を感じました。中国の祝日は登山を避けた方が無難でしょう。



山頂では、降りしきる雨で 20m 先も見えない状態でしたが、下山で「南天門」近くまで降りたときに、一時雨が切れ、泰山の秀麗な景色を垣間見ることが出来ました。



帰路は今日中に次の曲阜市に移動する都合もあり、「中天門」からバスを利用しました。泰山の登山者は若い学生が多かったのが印象的でした。

曲阜市は孔子の故郷として有名です。ここも、若い学生が多く私たち同様に泰山を登った後に訪れていました。

孔子廟、孔府、孔林（孔子一族の墓地）はいずれも広大な敷地でした。孔子自身は恵まれなかったようですが、その子孫は今も大きな恩恵を受けているようです。孔子の直系子孫は共産党政権の成立時に台湾に移住、文化大革命時代に打撃を受けたとのことで、建物以外に見るものはありませんでした。山東博物館を訪れた折に、孔子家ゆかりの品が展示されていました。

済南は山東省の省都で、活気に溢れています。ホテルの近くに海鮮料理店がありました。山西省に来てから 7 ヶ月、魚類は一切口にしていませんでした。海魚を見た嬉しさから、一人 104 元を奮発してアワビに似た貝と体長 40cm 程の「あんこう」を食べました。下の写真はあんこうです。中国では、なんでも皮、骨ごとぶつ切りにして料理します。



タイトな日程でとても疲れましたが、楽しい旅でした。

今回の旅行に掛かった費用です。

1、夜行列車 行き硬臥中段 148 元、帰り 硬臥下段 142 元、手数料 10 元で	300 元
2、泰山門票 127 元の処、60 歳以上半額で	62 元
3、泰山下山バス	30 元
4、泰安-曲阜 長距離バス代	23 元
5、孔子廟、孔府、孔林+状元博物館 一括門票 150 元の処 60 歳以上半額	75 元
6、曲阜-済南 長距離バス代	45 元
7、済南の観光地、60 歳以上無料	0 元
8、2 日間の旅館代 曲阜 80 元 (割高な印象です)、済南 85 元	165 元
9、海鮮料理	104 元
10、タクシー (2 回) + 市内バス (5 回)	20 元
11、その他-飲料・食費	66.5 元
	<hr/>
合計	890.5 元

日本円 15 円換算で、13,358 円でした。

以上